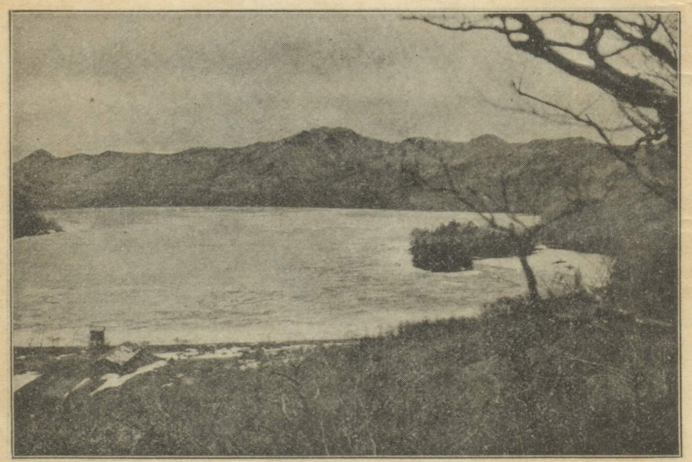
市城山廻遊案内

岩澤正作著

毛野研究會發行

K298
I96

赤城山大洞赤城神社



赤城湖を隔てゝ外輪山の西北を望む

赤城山廻遊案内目次

口　繪　寫眞十二面

山頂案内圖　一葉

□赤城山概説……一

□山中の名勝……三

○赤城湖○大洞○小鳥島○紅葉が淵○疊滿淵○小沼○朝香山○見晴山ツヽジの勝地

□赤城山と交通……四

□上毛電鐵車窓から赤城山の展望……五

○新大間々驛から中央前橋驛へ○新大間々驛の展望○中央前橋驛から新大間々驛へ

赤城山登山案内

□前橋口……九

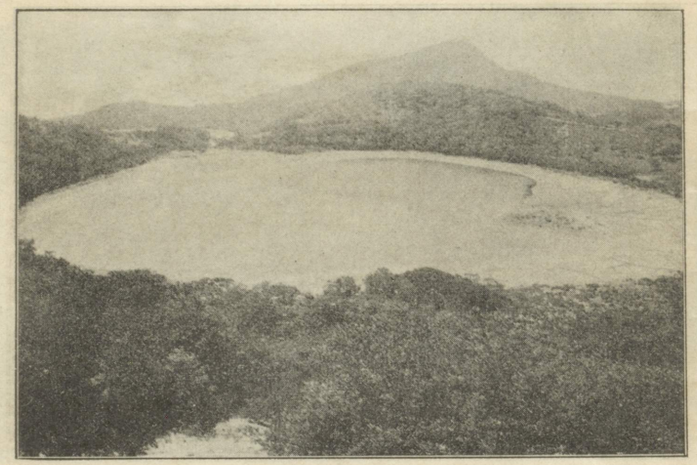
○前橋市○赤城牧場○三の輪○一林清水○樺澤鑛泉○地獄谷

□大間々口……一三

○赤城山バス○新大間々驛○大間々町○高津戸峽○神梅新道○貴船神社○神梅鑛泉○深澤城址○梨木鑛泉○水沼からの赤城登山道○一ノ鳥居○鍛冶坂

□赤城山頂廻遊案内……一九

県立図書館
昭和35.3.5.
22170

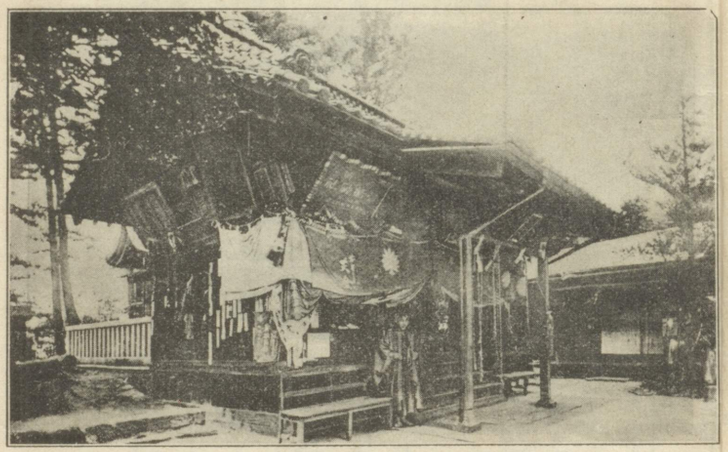


小沼を隔て荒山を望む

番小屋平の蓮華ツヽジ

新坂平牧場と鍬柄山

新坂平のレンゲツヽジ



貴船神社

赤城湖畔のキヤンプ

梨木鑛泉全景

八丁坂スキー場

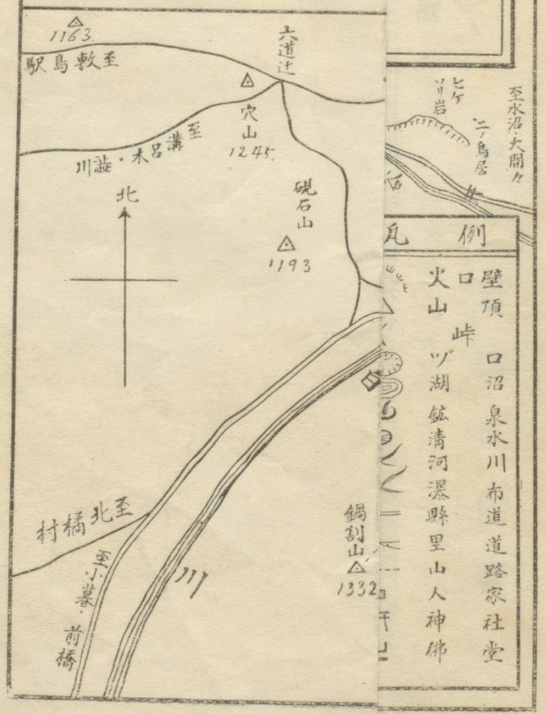
赤城山案内略圖

里程表

大洞赤城神社ヨリ

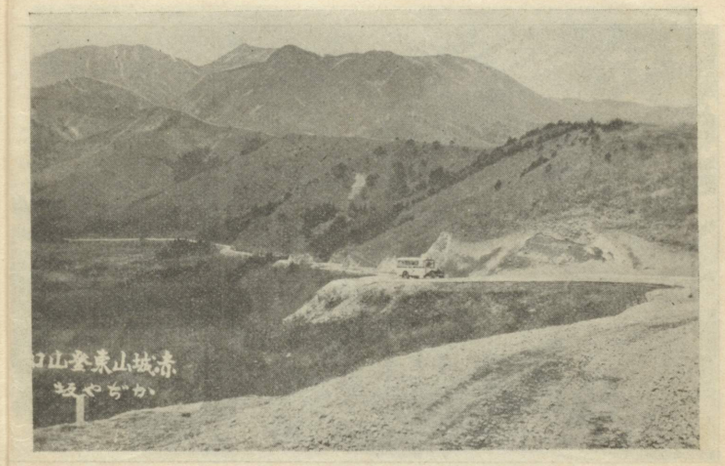
地蔵岳	黒檜山	薬師岳	鈴ケ岳	銀山	荒栖山	長七郎山	駒ケ岳	大沼周	小沼一ガラン	銚子輪峠	五張越	出バコ峠	ウバコ坂	新テンヤ坂			
半十里	三十丁	三十丁	一里餘丁	三寸	一十里丁	二十里丁	半里餘	十一丁	廿半五里	廿五丁	廿五丁	廿五丁	廿五丁	廿五丁			

ミノハ	鄰蹋ケ峰	六道ノ辻	水沼橋	前川驛	澁鳥驛	敷大驛	沼田町	三夜澤	梨木澤	湯澤	瀧屋	利根峠	輕井澤	平茶利			
一里半	三十丁	一里半	三里半	六里半	五里半	三里半	五里半	三里半	二里半	二里半	三里半	廿三丁	三十丁				

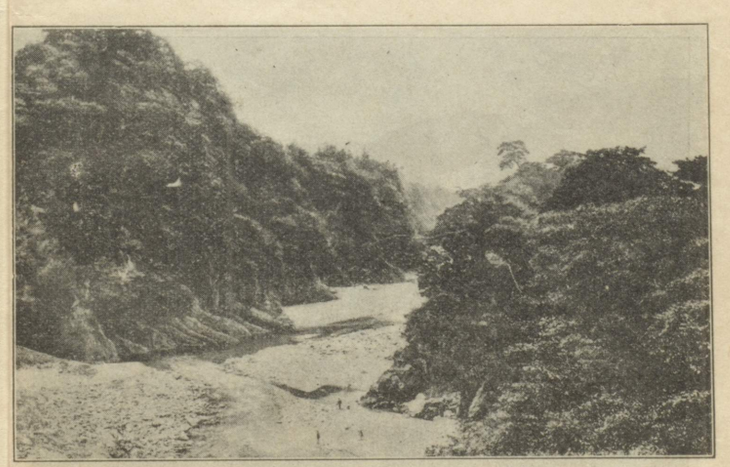


例凡

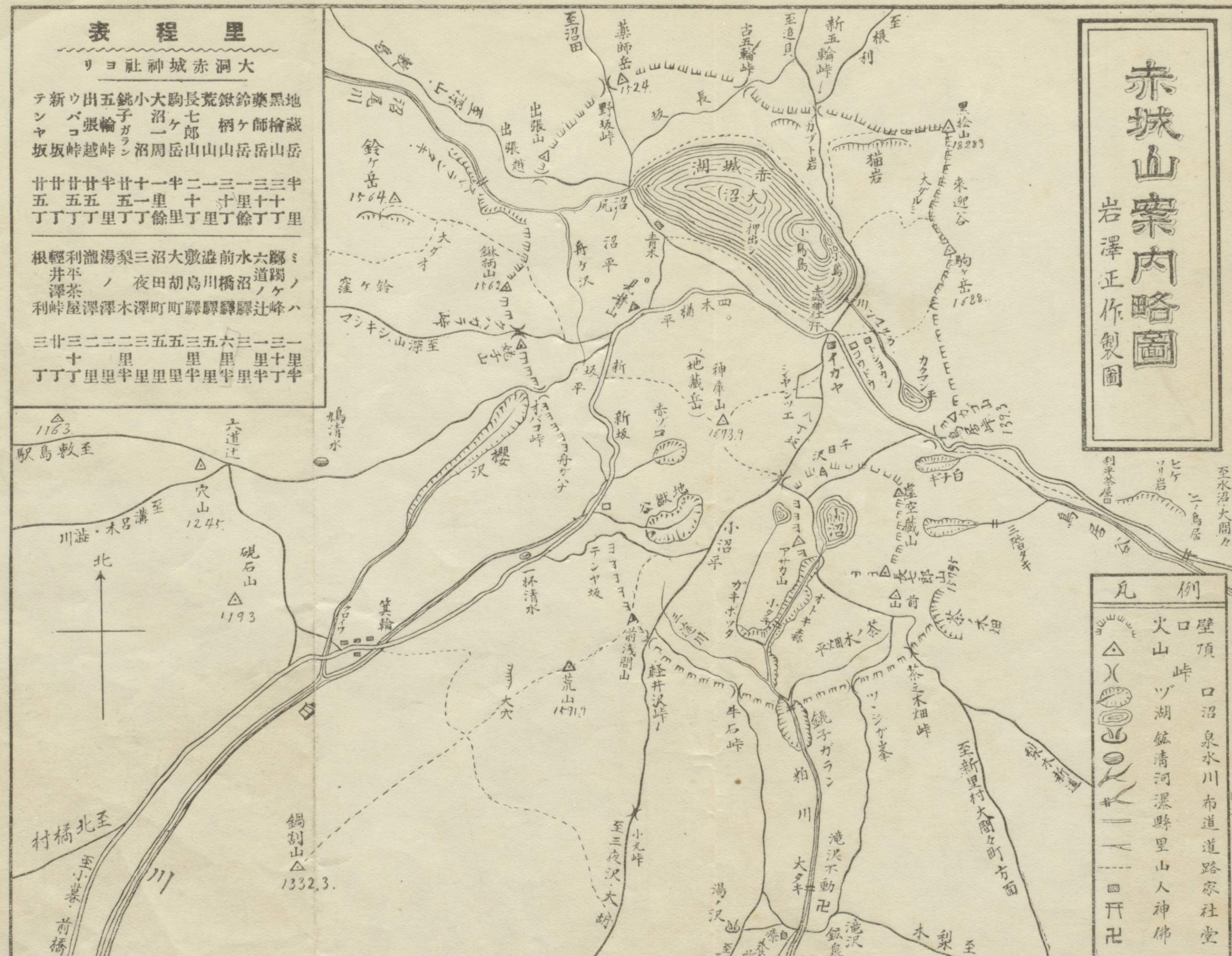
壁頂
口
火山
峠
ヅ湖
鉱清河
濕驛
里山人
神佛
口沼
泉水川
布道
道路
家社
堂



赤城山東登道鍛冶坂の景



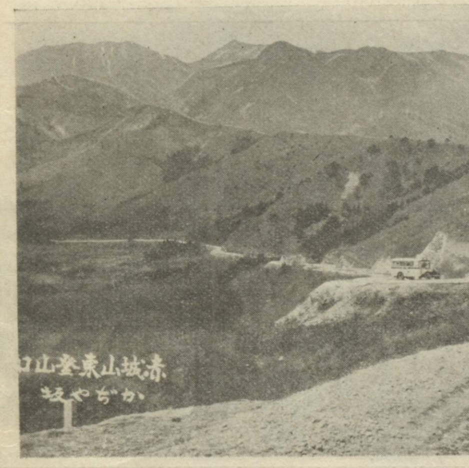
大間々名勝高津戸峡ヨリ
赤城山を望む



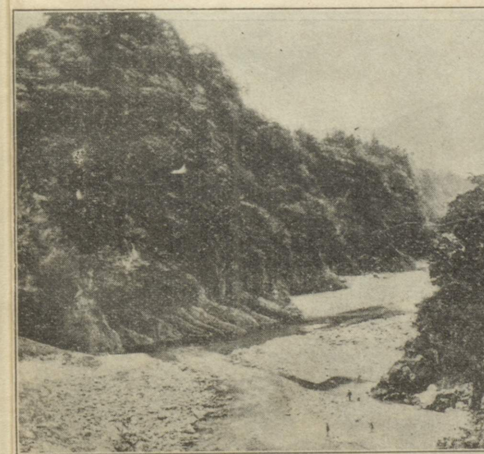
里程表

大洞赤城神社ヨリ

地藏岳	半里
黒檜山	三十丁
薬師岳	三十丁
鈴ケ岳	一里餘
鍬柄山	三十丁
荒山	一里
長七郎山	二十丁
駒ケ岳	半里
大沼一周	一里餘
小沼	十一丁
銚子ガラン	廿五丁
五輪峠	半里
出張越	廿五丁
ウバコ峠	廿五丁
新坂	廿丁
テンヤ坂	廿五丁
ミノハ	一里半
躑躅ケ峰	三十丁
六道ノ辻	一里半
水沼驛	三里
前橋驛	六里半
澁川驛	五里
敷島驛	三里半
大胡町	五里
沼田町	五里
三夜澤	三里
梨木	二里半
湯ノ澤	二里
瀧澤	二里
利平茶屋	三十丁
輕井澤峠	廿丁
根利	三丁



東登道鍛冶坂の景



々名勝高津戸峡より
城山を望む

赤城山廻遊案内

四拙　岩澤正作著

赤城山概說

赤城山は榛名山・妙義山と共に上毛三名山の一で、關東平野の西北緣・群馬縣勢多郡と利根郡との境に峙立し、其裾野の三面は渡良瀨川・根利川・片品川・利根川等の諸川を以て劃られ唯南面のみ開けて上州平野に臨んでゐる。此山は鋭尖圓錐形をなし、山頂は數峯に分れ、茫漠たる平野に向つて長い裾野を曳き、放眸遮るものなく、威風悠然として關八州の山野を壓してゐる。これ此山の夙に人口に膾炙された所以であらう。

赤城山は實に二重式複火山で、山頂に環立する諸峯中　黑檜山・藥師嶽・出張山・鍬柄山・姥子山・前淺間山・牛石嶺・茶之木畑山・駒ヶ嶽等を列ねた楕圓環が、所謂舊火口壁で現在の外輪山である。此等外輪山に圍まれた大壑が即ち最初の噴火口で、其稍西南に偏して中央火口丘神庫山（俗稱地藏嶽）が峙立し、火口丘神庫山と外輪山との間には、火口原覺滿平・番小屋平・四本楢平沼尻平・新坂平・小沼平等の原野が斷續してゐる。赤城湖（俗稱大沼）は火口原の低所に水を湛へた火口原湖である。

以上外輪山・中央火口丘・火口原・火口原湖等、二重式複火山の要素を備へた上に、尙山腹の弱所を破つて噴出した寄生火山（又側火山と云ふ）がある。其噴火口は今の小沼で、其噴出物は火口の

周圍に堆積して火口壁をなす。長七郎山・虚空藏山・北山・朝香山の諸峯となつて、小沼の周圍に峙立してゐる。されば小沼は寄生火山の火口内に天水を湛へた所謂火口湖である。山中には尙地獄谷の爆發孔址があり、又火山活動の餘勢と見るべき硫氣孔・蒸氣孔・溫泉等の殘址がある。地獄谷は爆發後少時硫氣を噴出した硫氣孔址で、小沼川の沿岸には熱蒸氣を噴出した蒸氣孔址があり、湯之澤其他に溫泉の名殘が存在する。

赤城山中には火口内の水を、火口外に流出する、所謂火口瀨が三條ある。即ち赤城湖を源とする沼尾川、小沼に發源する粕川、地獄谷及び神庫山西南部の溪流を集めて流出する白川等で、尙幾多の副射谷もある。次に赤城火山を地形的に表記して見やう。

外輪山――舊火口壁

黑檜山・藥師嶽・出張山・鍬柄山・姥子山・前淺間山・牛石嶺・茶之木畑山・駒ヶ嶽等

中央火口丘

神庫山（俗に地藏嶽と云ふ）

火口原――舊噴火口底

覺滿平・番小屋平・四本楢平・沼尻平・新坂平・小沼平・茶之木畑平等。

寄生火山　噴火口・小沼　火口壁・長七郎山・虚空藏山・北山・朝香山等。

爆發孔址、地獄谷、

硫氣孔址、地獄谷、

蒸氣孔址、小沼川の兩岸

溫泉、湯之澤溫泉

火口瀨、沼尾川、白川、粕川等。

山中の名勝

○赤城湖　里俗大沼と呼び、萬葉集に葛葉潟（クズハガタ）と詠まれたもので、神庫山の北にある火口原湖で周廻一里餘、形勾玉形をなし、湖畔には雜木茂生し頗る幽邃靜寂の境である。

○大洞　赤城湖周圍の平地を大洞と呼び、其東端に大洞赤城神社が鎭座し、附近に社内屋・赤城旅館・講堂・圖書館等があり、西岸を沼尻（ノジリ）と呼び青木旅館・鱒の孵化試驗場等がある。

○小鳥嶋　赤城湖の東岸近くあり、嶋内は樅（ツガ）等の老樹の間に雜木茂生してゐる。

○紅葉が淵　山中何處でも紅葉は好いが、沼尻の北岸に特に楓類の老木多く、夫れが湖水に映じて美い處から稱せられてゐる。

○覺滿淵　覺滿平の中央部に湛へた瀦水（チョスキ）で、其周圍は蘚苔類の茂生してゐる沮洳地（ショジョチ）で、モウセンゴケ其他の濕地植物に富み、初冬スケート場として稱せられてゐる。

○小沼　神庫山の東方約二丁の處にある火口湖で、周圍約九丁深さ十七米と云ひ、周圍に長七郎山・虚空藏山・朝香山等が迫（セ）まり、頗る悽愴（セイサウ）の感がある。

○朝香山　小沼の西岸に峙立し、舊中山と呼んだが、昭和三年九月二日　朝香宮鳩彦王殿下が騎馬御登攀あらせられた記念として改名した、山頂ッ、ジ・紅葉等の眺めがよい。

○見晴山　神庫山の西・新坂平から大洞に下る途中に在り、ッ、ジの眺めがよい。

○ッ、ジの勝地としては新坂平・沼尻平・番小屋平・覺滿平・小沼平等がある。尙オトギノ森・

朝日瀧・銚子伽藍等の勝地あるも、詳細は拙著赤城山大觀（送料共金五拾四錢）を參照されたい。

赤城山に登りて黑檜山に登らざれば、共に赤城山を語るに足らずと言はれてゐるが、黑檜山は實に全山の代表的秀嶺である。詳細は拙著赤城山大觀に讓り、登路の大要を記すと、講堂の前を北に廻り覺滿川を渡り、駒ヶ嶽の南裾から駒ヶ嶽の頂を經て、大ダルミに下り黑檜山の南腹を直登りに登り、登りきると左折して進むと、三角點がある。尙北に進むと舊黑檜神社奉祀の址に逢着する。其間西に下る道がある。これを下ると猫岩の上を經て赤城湖畔に出られる。

赤城山と交通

赤城山は勢多郡の北を壓し、利根郡の南を蔽ひ、兩郡の境上に峙立し、東に渡良瀨峽谷、北に片品峽谷、西北に利根峽谷を控へ、南及び西は平野に臨めるを以て、山頂大洞の地は古來交通の衝に當り、四方八方から交通の捷路（チカミチ）とされてゐた。されば大洞は文字通り四通八達の巷で實に十二條の通路がある。以下其東部より列記すると、(1)鳥居峠（水沼・大間々口）(2)茶之木畑峠（梨木・神梅・大間々口）(3)躑躅ヶ嶺通り（瀧澤口）、(4)牛石峠（湯之澤・瀧澤口）、(5)輕井澤峠（三夜澤・大胡口）、(6)テンヤ坂（箕輪・前橋口）、(7)新坂峠（箕輪・前橋口）(8)姥子峠（柏木・溝呂木・敷島・澁川口）、(9)鍬柄峠（深山・敷島口）、(10)出張越（深山敷島口）、(11)野坂峠（沼田口）、(12)五輪峠（利根郡東入口）等である。

以上は何れも山麓地方に於て數條に分れ、接續町村は勿論接續諸大字の何處からでも登られ其登路の主條は各景觀上の特徴を備へ、直に登路の甲乙はつけ難いが、本誌の目的は日歸り又は一泊の短時間に於ける廻遊にあるから、大間々口から水沼・二ノ鳥居・利平茶屋をへて鳥居峠を登り、山頂を廻遊して大洞から新坂平に出で、新坂を下り一杯清水から箕輪・小暮を經て前橋に出で、上毛電鐵で東に歸るか、或は此コースを反對に、前橋口から小暮・箕輪を經て、一杯清水に至り、新坂を登り赤城湖畔に出で山頂を廻遊して、鳥居峠又は茶木畑峠から大間々に下り、新大間々驛から上毛電鐵で西に歸るか、東武電車で歸京せらるゝ方々の東道となすべく執筆した、此コースは略圖に示すやうに新大間々驛から利平茶屋まで自動車があり、これより頂上赤城神社迄二十五町、又前橋口は一杯清水迄自動車があつて、一杯清水から赤城神社迄約一里、但し東武線廻遊切符の方は箕輪を終點としてゐる。時間等の詳細は廣告欄參照あれ。

上毛電氣鐵道車窓から赤城山の展望

○新大間々驛から中央前橋驛へ、本線の終點西桐生驛又は東武線電車で新大間々驛に近づくと、赤城山はドッシリと長い裾野を曳いて雄大な姿態を横へてゐる。

○新大間々驛の展望　新大間々驛で左窓から展望すると、右方目の前に鹿田山の丘嶺が連り正南には天正の頃太田金山の砦の在つた、廣澤の茶臼山が峙立して、其脈蜿蜒南下して太田の金山に連つてゐる。又右窓から北方を望むと、渡良瀨峽谷の右側（左岸）には、足尾山塊の餘脈が連り、其最北部に聳（ソビ）えてゐる駝背に似た双峯は、大袈裟（ケサ）・小袈裟の袈裟丸山で、足尾山

塊は蜿蜒南下して平野に沒してゐる。驛の目前右側に突出して渡良瀬川に臨み、頂上に常盤木の叢生するは、天正年中里見勝政・勝安兄弟の據つた高津戸城址の在る要害山で、其下が東毛の名勝高津戸峽の中樞部である。要害山の西北對岸に突出するものは、黑川峽中深澤城の信號所のあつた手振山で、其背後に峙立するものが、赤城山である。赤城山の頂は數峯に分れてゐる。

赤城山の東部最北に聳えてゐる尖峯は、山中の最高峯黑檜山で、其東腹は急傾斜を以て下り、高原狀をなす處が花見原である。黑檜山の南は駒ヶ嶽・籠山と連り、其南の最も低い所が水沼口の登道鳥居峠で、其南に虛空藏山（俗稱小地藏山）長七郎山と連り長七郎山の南側、即ち南面の東端に茶之木畑山があり、其西に梨木鑛泉方面から登る茶之木畑峠があつて、其處から西に躑躅ヶ嶺が堤防狀に連り、其略中央部から岐出した尾根が瀧澤から登る躑躅ヶ嶺通りで躑躅ヶ嶺の西の窪所が銚子伽藍で、其下方が粕川谷である。銚子伽藍の西に牛石嶺が峠立し其西に湯之澤口の牛石峠と、三夜澤口の輕井澤峠があつて、其西に荒山の尖峯が聳え、其東北に前淺間山・西南に鍋割山が突出し、前淺間の北・牛石嶺の背後に見えるものが、中央火口丘神庫山である。此驛附近からは赤城山中の東北隅に聳える黑檜山から、西南に突出する鍋割山に至る東南部の半面が一眸の下に指呼される。

新大間々驛を發し新川を過ぎると、虛空藏山が長七郎山に被はれ、武井を過ぎると黑檜山と駒ヶ嶽とが一峰のやうになり、長七郎山と神庫山との間に小圓錐峰が現はる、これは小沼寄生火山の火口壁をなす朝香山で、膳に近くと黑檜山は大分其偉容を失したが、其東腹花見

が原から急下した裾が明かとなり、長七郎山の右に虛空藏山が尖頭を現はす、粕川驛に近くと荒山の中腹に在る大穴の窪地が明かとなり、長七郎山の東南に茶之木畑山が、長七郎山と離れて明かとなる。新屋附近から黑檜山が全く隱れ、前淺間山が段々荒山の背に入り、樋越を過ぎると全く見えなくなる。大胡驛附近に至ると、鍋割山の背後から姥子峠から岐出する尾根が現はれ、朝香山が牛石嶺に被はれ、長七郎山と神庫山の間に駒ヶ嶽が現はれるが間もなく見えなくなり、江木を經て赤坂に近くと、神庫山が段々荒山の背後に入り終に全く隱れ上泉驛を過ぎると、鍋割山の左から遙か北方に一尖峰が現はる。これは鍬柄山の西にある鈴ヶ嶽で、片貝を經て、三俣に至る間で荒山と長七郎山の間遙かに、黑檜山の尖峰が現はれ、三俣を過ぎると、赤城山は見惡くなり、榛名山が明かに指呼されるが間もなく市街地の屋根に被はれ、一毛町を經て中央前橋驛に着く。

○中央前橋驛から新大間々驛へ、中央前橋驛は兩毛線前橋驛の北微東約五町を隔て、八間道路の東側・比利根川の左岸に位し、前橋市一毛町に在つて、上毛電鐵の基點であると共に、東武線電車桐生線接續の終點となつてゐる。此驛を發し一毛町停留所に近づくと、左窓の前面に赤城山が望まれ、西と南に長い裾野を曳いてゐる山中西南部に突出して直に前橋市の背後を壓するものは鍋割山で、其北部に聳うる尖峯が荒山である。荒山と鍋割山の左に在る窪地は、前橋口登山路にあたる白川谷で、其左の尾根の頂が姥子峠で澁川・敷島方面の登道である。姥子峠の北には西部外輪山が堤防狀に連り、姥子山・鍬柄峠・鍬柄山と數へられ、最北の鍬柄山の西腹に峠立する巖山が、鈴ヶ嶽である。荒山の東に續く連嶺は南部外輪山の一

部で、其處に縣社赤城神社の鎭座する三夜澤に下る輕井澤峠と、其東に在つて湯之澤瀧澤方面に下る牛石峠があり、牛石の東にある窪地は粕川谷の上流銚子伽藍である。此窪地の東に連る處が躑躅ヶ嶺で、其處から南下する尾根を躑躅ヶ嶺通りと云ひ、瀧澤不動堂に降るもので躑躅ヶ嶺の東に梨木鑛泉及び大間々町に下る茶之木畑峠があり、其北に聳うる尖峯が長七郎山である。三俣・片貝を過ぎると鈴ヶ嶽が次第に其影を沒し、荒山の東北に小圓錐峯が現はれる。これが赤城山中の最高峯黑檜山である。上泉驛を發し桃木川を渡り臺地に入ると荒山の蔭から神庫山（俗稱地藏嶽）が現はれ黑檜山が次第に隱れる。赤坂・江木を經て大胡驛を過ぎると、神庫山は圓顱形となつて其容積を增し長七郎山の尖峯も圓みを帶びる。樋越に近くと長七郎山の西牛石の右肩から小圓錐峯が現はれる。これは長七郎山・虛空藏山と共に小沼を圍む朝香山である。樋越を發すると神庫山と荒山の間に前淺間山が現はれ、長七郎山の北に虛空藏山・駒ヶ嶽・黑檜山等の諸峯が頭角を現はし、新屋を過ぎると黑檜山の東腹が花見が原となり、其東方急下して遙か東に栗生山が望まれる。粕川を渡り粕川驛を過ぎ膳に近くと朝香山と虛空藏山とが隱れ鳥居峠の窪地が僅に認められる。鳥居峠は大間々、水沼方面の登路である。膳をへて武井を過ぎると、黑檜山が其容積を增し、巍然として北緣に聳え最高峯たる見得を張つて其南に駒ヶ嶽・鳥居峠・虛空藏山・長七郎山と漸次に列り、長七郎山の南に在る茶之木畑山も明かになり、前橋上泉附近とは全く山容が異つてゐる。新川を過ぎ新大間々驛に入ると、赤城山の東半部の山々が明瞭となり、渡良瀨川を隔てゝ足尾山塊の諸峯に對峙してゐる。何と云つても本線は赤城山の正面に當る山麓地帶を橫切つてゐるから、西方姥子

峠から岐出する尾根と、東方茶之木畑峠から分岐して梨木嶺に續く尾根の間に介在する、尾根・尾根と谷谷のシジハは明かに見え、秋季山腹の松林の間に交はる雜木林がもみぢて山腰を彩つた車中の展望はまた格別である。

赤城山登山案內

前橋口

○前橋市　前橋市は赤城山の西南、利根川の左岸に在つて、群馬縣廳の所在地で、縣廳舍は市の西方利根川の崖上舊厩橋城址にあり、市內には地方裁判所其他の官衙、銀行・會社等多く、市は近年其周圍に著しく膨脹し、最近の統計によると、人口九四、二〇七人、戶數一六、七五三戶に達し、交通機關は東京上野驛から大宮を經て高崎市に至り、兩毛線に接續して前橋驛に入り更に伊勢崎・桐生を終て栃木縣に入り小山に至り、上越線は高崎市より新前橋驛に入り、澁川・沼田・水上をへて新潟縣に入り長岡に至る。上毛電鐵は中央前橋驛を起點として大胡・新大間々を經て桐生市に至り、東武線電車は東京淺草雷門を發し、本縣に入り館林・太田・新桐生を經て、新大間々驛にて上毛電鐵に入り中央前橋驛に直通し、尙前橋驛前を發し市內を通過して、澁川に至り更に伊香保溫泉に至る電車がある。其他乘合自動車が四近の各都邑に向つて運轉されてゐる。市內に第一公園と第二公園が在つて、共に自然の風致を取り入れ、展望廣濶に山光水色に富み、神社佛閣には縣社八幡宮を初め、東照宮・神明宮・龍海院・橋林寺・妙安寺外に數多ある。又天川の二子山・岩神の飛石・敷島のお艶

が岩・鎌信杉・八幡宮の大公孫樹等の史蹟名勝天然紀念物がある。（詳細は本會發行「上毛電鐵沿線概觀」定價金五拾錢參照あれ）

○赤城登山バス　本線は省線連絡で、赤城乘合自動車商會の經營に屬し、營業所を市内才川町に置き、兩毛線前橋驛前に出張所が在る。

赤城登山バスは前橋驛前を發し、所謂八間道路を辿り上毛電氣鐵道中央前橋驛に至り、これより尙八間道路を北に進み、東佐久間橋を渡り突き當りから左折して小柳町の角から更らに右折して一本橋を渡り、淸玉寺町に入り群馬縣女子師範學校附屬小學校の前を通り才川町を過きり、飯玉橋・北代田橋を渡り、勢多郡南橘村下細井耕地を過り、同郡富士見村上細井に入る。上細井は勢多郡式外の官社白河明神の鎭座する處、登道は漸く赤城山麓地帶に入り、爪先登りとなる。細井を過ぎ時澤に入り、時澤小學校の前を過ぎると間もなく、小暮に入り前面途上に八幡鳥居が見える。鳥居の手前右手に小暮郵便局がある。鳥居を潛つて字所皆戸の新開地を進むこと十餘町、左に朝香宮鳩彦王殿下が赤城山御登山に際し、勢多郡靑年團の分列式を受けさせられた紀念の石標を建つ、二三町進むと右に群馬縣立種畜場がある。此附近から前面を見ると鍋割山が屹立してゐる。

種畜場から數町進むと松林中に入る。尙十町許りで大河原に着く、前橋へ一二、四四九粁（三里六町）大洞へ一一、二二七粁（二里三十町）海拔五四〇米と標してあり、乘合自動車大河原待合所がある。白川の河原を涉り十數町進むと、前面右に荒山左に神庫山（俗稱地藏嶽）が見えるが、少時にして荒山が隱れ亞いで神庫山が隱れる。數町進むと澁川柏木方面の登道が會してゐる。尙二町許登ると左に丸ト組製絲場指定蠶種白馬聯盟原蠶飼育分場がある。此附近から右に鍋割山が現はれ、其東北の尾根から荒山に連り、更に北方神庫山に接し神庫山の西南腹にあるゾロが望見される。路は漸く傾斜を增し間もなく前面に三の輪の部落が見へ、目の前に牧場の木戸が見へる。木戸には赤城牧場と標してゐる。木戸を排して進むと其處彼處に放牧の馬牛が群つてゐる。牧場内の溪流に架した橋を二つ渡ると、間もなく櫻澤の溪流を涉り三の輪の部落に入る。

○赤城牧場　現在群馬縣勢多郡と前橋市の畜産組合の經營で、勢多郡富士見村字赤城山御料地七百六十八町九反二畝二步に亘つてゐる其經營法は五月から十月まで放牧するもので全區を二區に分ち、第一區は三の輪を中心とする部分で、第二區は山頂の神庫山を中心としてゐる。從つて其海拔の差著しきを以て、第一區は草萠え早きを利用し五月六月の間放牧し、六月下旬又は七月上旬から第二區に移し、此處に七八二ヶ月極暑の間を過させ、秋冷を感じ牧草硬化する九月になると、更に第一區に移して再生した柔かな牧草を飼料に充て、所謂輪放牧の實を擧げ得る樣に施設して、牛馬の夏季衞生保健を完からしむることを期してゐる。

○三の輪　富士見村大字小暮の字で、從來茅屋約十戸許りの寒村であつたが、赤城山の開發に伴つて其外觀を一變した。今は數軒の休憩所があり、赤城山バスの發着所がある。三の輪の入口に標木を建て、前橋へ一七、九八七粁（四里二十丁）、大洞へ五、六八九粁（一里十八町）海拔一〇四〇米と記す。尙金丸・大胡・伊勢崎・大間々等の近道と記した標木を建つ。（里人金丸へ二里大胡へ四里と云ふ）一杯淸水へ里人は十八町と云ふが、徒步で約四十分を要す。

三の輪を出で白川に架けた姫百合橋を渡ると坂路となるが、舊道と異なり白川の左岸に近く迂廻して登るから、前面に神庫山と船ヶ鼻を望み、對岸の風景を眺めながら登るので大分登路の風趣を增した。赤城山乘合自動車の終點一杯清水は、舊道一杯清水の上方一町餘、地獄川と白川の會合點地藏橋の傍にある。

○一杯清水　舊道のテンヤ坂口を岐つ處の下に在つて、路傍滾々として清冽な泉が湧出して此登道に於ける一名區で掛茶屋がある。

自動車の終點から地藏橋を渡り數町進むと、樺澤鑛泉の入口が右に岐れてゐる。

○樺澤鑛泉は一に地獄谷の湯又地藏の湯と稱し、地獄谷の入口に在り、三面翠嵐に圍まれた靜寂な仙境で、曾て幸田露伴は此處に寓して「一口劍(ヒトフリケン)」を著はした。

○地獄谷　神庫山と荒山との間に在り、これ赤城山最後の活動によつて、中央火口丘神庫山の南腹と外輪山の西南の一部とを破壞した跡で、所謂爆發孔址であるが、爆發後尙少時硫氣を噴出した所謂硫氣洞となつてゐたことは、今尙其崖壁に硫黃泥層を挾むを以て證せらる。其面積大ならざるも後に雨水の浸蝕作用を受けて深刻な溪谷となり、人之に臨めば心氣自ら悽然たるを覺ゆるを以て呼ぶと云ふ。

樺澤鑛泉の入口から三四町進むと、愈ゝ新坂にかゝるので、登路は大分勾配を增すが先年改修の結果大に緩傾斜となつた。路は勿論九折狀(ツヅラガタ)をなして一歩毎に眺望が開ける。これを登り詰めた處が即ち新坂平で、鳥居峠の展望に比して水色は缺けてゐるが、前面の急に廣濶となる處が心地がよい。原頭に叢生する灌木はレンゲツ、ジである（山頂案内前橋口參照）

大間々口登山案内

渡良瀨溪谷の關門である大間々町から、赤城山に登る道路は數條あるが、今東武電車で回遊道路としてバスの運轉されてゐる、前橋・赤城山大洞・水沼線縣道、即ち赤城山各登道中の搦手(カラメテ)について概記する。

○赤城山バス　東武電車又は上毛電鐵で新大間々驛に下車すると、驛前に赤城山タクシーの營業部があつてバスが待つてゐる。

○新大間々驛　大間々町の南端、七丁目の南端街路の東側に在る。

○大間々町　山田郡の西北端渡良瀨川の右岸段丘地に發達した、南北に細長い小都邑で、古來足尾の咽喉となつてゐた、町は古く製絲と機織で發達したが、明治維新後著しく衰へ、今は僅に餘喘を保つに過ぎない。殊に足尾線鐵道の開通によつて、足尾の關門であつた鑰(カギ)も取りはづされ、現在これと特筆すべきものはないが、明治の末年から著しく膨脹して、現在戶數一、七三三戶、人口八、一七一人存在する。此町の誇は何と言つても、市街地の東裏に接した名勝高津戶峽である。此町は久しく交通機關に酬ゐられなかつたが、曩に足尾線鐵道が敷設されて、町の中央四丁目東裏に大間々停車場を置き、亞いで上毛電鐵が敷設されて新大間々驛が設けられ、尙東武電車が延長して新大間々驛に接續したから、東京への距離は著しく短縮して便利となつた。尙前橋・大胡行・桐生足利行・岩宿行・赤城山行・水沼・花輪・神戶行・貴船・小平行・伊勢崎・茂呂行・國定・境行等の乘合自動車も發着してゐる。

○高津戸峡　本峡は廣義には桐生市相生村・川内村・大間々町・福岡村・黑保根村の一市五ヶ町村に亘り二里餘の間と言はれてゐるが、狹義には大間々町と對岸川内村大字高津戸との間に架けた高津戸橋の下方から上流十餘町信榮橋に至る間とする。此間崖岸は基骨を露はし、奇巖突出して雜木繁り、河床には怪石横はりて深潭急瀨次ぎ次ぎに現はれて奇峽をなし、春花秋葉の景も備はり、殊に左岸に迫りて峙立する要害山は京の嵐山に彷彿してゐる。山頂に高津戸古城址があり。山脚に高津戸鑛泉があつて、近年山腹に櫻を栽ゑたが、櫻花は未だ嵐山に及ばざること遠きも、山頂展望の優且つ大なることは彼に優ること數等である。高津戸橋の西崖上に「ながめ」遊園地が在つて、四季の花卉を栽ゑ、殊に牡丹・藤及菊花壇と菊人形が呼び物で、これ又町民が誇りの一としてゐる。其他峽中には屏風岩・伊勢ヶ淵・鄉社神明宮・鰕瀧・道了堂・清水瀧・見晴の藤等がある。

長い大間々町の市街地をぬけて、上桐原の部落に入り左に深澤家の牡丹園を見て進む程に間もなく神梅新道の奇勝地に入る。

○神梅新道　山田郡大間々町大字桐原字上桐原の地先から、勢多郡黑保根村大字下神梅に亘る十餘町の間で、左は頭上數仞の斷崖が懸りて、崖脚に大間々町の灌漑用水が滾々と流れ、右は脚下また幾仞の絶壁をなして渡良瀨川に臨み、對岸は崖骨露出して奇景を呈し、河床深くして幾多の奇岩怪石並列し、峽中獅子巖・郡界の岩門・烏帽子岩・勢山瀧・女蘿巖・七曲の奇勝・龍松ヶ淵・樋ヶ淵等の勝地があり、沿道春の花・初夏の若葉・秋の紅葉等とりどりの眺覽を備へ、殊に近年崖壁に山吹多く繁茂して、新景物を增した。

神梅新道を出で下神梅の部落を過ぎると、右方對岸に貴船神社の社叢が見え、右岸脚下に足尾線上神梅驛がある。

○貴船神社　山田郡福岡村大字鹽原字穴原に鎭座し、山城國鞍馬村鎭座、官幣中社貴船神社の分靈で、高龗神を主神とし、相殿に赤城大神を奉祀し、夙に農工商業の守護神として地方民衆の信仰篤く、常に賽者踵を接し、其講中は關東の諸府縣に亘り毎月一日十九日の祭日と四月九月各十九日の大祭日の非常に賑ふを見て、御神德の赫灼なることが窺はれる。

○神梅鑛泉　上神梅驛の北約四町の處に在り、地は渡良瀨川の右岸に位し、轉瀨の峽流に臨み、貴船の社叢に對して展望に富んでゐる。泉質はカルシューム泉で、胃腸病・神經諸症・リューマチス・痔疾等に特効がある。

上神梅驛・神梅鑛泉の前を過ぎり、上神梅の部落が終ると間もなく、梨木澤から來る深澤川に架けた深澤橋を渡り、大字宿廻に入る、二三町進むと梨木縣道が岐れてゐる。縣道の西北臺地に深澤城址がある。

○深澤城址大字宿廻字城に在つて、芥澤能登守の居りし處で、舊本丸の跡に今天台宗比叡山直末勢多郡三ヶ寺の一と云ふ正圓寺が在つて、其左は二ノ丸・右は三ノ丸の跡で、左方に馬場と呼ぶ地字もあり、前方稍低き地に天守閣の址がある。

○梨木鑛泉　黑保根村大字宿廻字梨木澤に在り、縣道の岐れ口から約一里　梨木道は曩に縣道に編入されたが未成線であるため、自動車を横づけにすることは近き將來に屬し、當分は乘馬か駕籠による外はないが、深澤川に沿うて山光水色の美しい道で、殊に近年大に改修さ

れたから大低の足弱でも徒歩で容易に登られる。鑛泉は深澤川の左岸から湧出し、泉質は食鹽を含む炭酸泉で、内服して胃弱・便秘によく、外浴して慢性粘膜カタル、婦人生殖器病・瘰癧（ルイレキ）・皮膚病・リューマチス・呼吸器病等に特効がある。地勢は赤城山の東南輻射谷に在つて丘陵其周圍を繞つてゐるから、展望はさまで廣濶ならざるも、四季の眺覽備はり、標高五百餘米の地に位するを以て、土地高燥空氣清凉にして山光水色に惠まれた別天地で、氣候は盛夏の候尚八十度を超ゆること稀で、朝夕冷凉を感ずるも、東南に面した山谷の間にあるを以て冬季比較的暖く、從つて避暑避寒の好適地として稱せられ、四季を通して浴客絶ゆることなく少きも百餘人、多きは七八百人から千人を突破する盛況を呈してゐる。鑛泉旅館は深澤直十郎氏經營の梨木館一軒であるが、三層樓數棟を建列ね客室大小百數十室あつて、收容力の大なる設備の充實せる東上州の鑛泉中白眉と稱せられ、殊に質實な待遇と低廉な經費とは他の追從し能はざるところと稱せられてゐる。

梨木縣道を左に見て進み、城下橋（シロオリバシ）を渡り對岸の風景を賞しながら進む程に南雲橋に着く。橋の左袂（ヒダリタモト）に發電所がある、本流の河床に注意すると烏帽子岩が峙立してゐる。間もなく大字下田澤字津久瀨の扇狀地に入り、部落の北端近く赤城山縣道が岐（ワカ）れ、前方河岸の沖積地に水沼停車場が見へる。驛前旅館赤城閣の北隣に赤城山タクシーの待合があつて、赤城山行自動車に乘り替へる。

○水沼から赤城登山道は實に四條ある

第一線は字津久瀨の部落の北端から分れてゐる縣道で、津久瀨の坂路を登り、字前田原の部落を過（ヨ）ぎり、柏山の部落を經て其北端にある赤城山一の鳥居につく。此路は四條中距離に於ては最も遠いが、傾斜緩なるを以て婦人小兒連れの選ぶべき登山道である。

他の三道中の一は赤城閣の南二町許の處から右折して坂路を登り、字前田原俗稱桐平に出で、前田原の部落を過り前記の縣道に會し、其二は前者の手前から右折して溪流に沿うて登り、臺地に出て又右折して字清水に出て本道に會し、左折して十餘町許進むと一ノ鳥居に到着する。其三は縣道を北に辿り、水沼橋を渡り左折して溪中に入り、又左折して溪流を渡り坂路を登り字清水の部落に入り前者に逢着する。

○一ノ鳥居は赤城山縣道と、沼田・大間々線縣道（舊根利街道で高山先生が北上紀行に通過された道である）の會點で、路傍に石鳥居を建て、赤城登道に沿うた溪流に堇橋（スミレバシ）を架け、橋下に懸る瀧を堇瀧と呼んでゐる。蓋左岸橋の袂に「山路來て何やらゆかし堇草（スミレクサ）」と云ふ芭蕉の句碑あるに因んでつけたのである。

一ノ鳥居から左折して進む、地盤は赤城山の裾野で火山屑からなり、未だ固定せざる新道を辿るので自動車の動搖を免れないが、兩側は概して新開地で展望に富み、原野及び林中にはツ、ジ類が多く自生してゐる、斯うして道を進むこと約半里で鍛冶坂に着く。

○鍛冶坂　地名は天正の頃此處に二人の刀鍛冶が居住せるを以て名づくと云ひ、今尚附近から鑛滓（カナクソ）を發見し、鍛冶の一人は深澤城に、一人は五覽田城に屬したと傳へてゐる。此地西方赤城山に面し、其最北部に山中の最高峰黑檜山が聳えて、南に駒嶽・籠山（カゴヤマ）と低下（テイカ）し、正面の最凹所鳥居峠となり、鳥居峠の南に虛空藏山（コクザウサン）（俗稱小地藏山）長七郎山と列つてゐる。脚下は鳥居谷で下

田澤の開墾地を隔てゝ、二ノ鳥居の杉森を望み、回顧すると渡良瀬川の河谷を隔てゝ足尾山塊の諸峰に對し、其北部に峙立する袈裟丸山から、南は山塊の末端が平野に沒し、更に其餘脈が廣澤丘陵となつて南に延長し、其間渡良瀬川の蜿蜒蛇行するを望見される。

鍛冶坂を下り下田澤の開墾地を過ぎり、約半里許進み橋を渡ると、左側に兜岩（カブトイハ）と呼ぶ一大岩塊がある。今其上部を破壞して全貌を損したが、形によつて名けたもので、二荒神が山頂から盜み出したものと傳へてゐる。目前に二ノ鳥居が見える。二ノ鳥居を出ると右に彎反岩（ヒケソリイハ）の障壁が列り、左は鷹の巢の岩壁が鳥居谷を隔てゝ障立してゐる。共に岩壁にツ、ジ類がかゝり花季壯觀を呈する。此風景を眺めながら十二三町進むと溪流に逢着する。此處を篠倉（サヽクラ）と呼び山中の奇勝釜の澤に發源してゐる。これより約二町餘で利平茶屋に着く。利平茶屋は此登山道の馬返しでこれから全く山路に入る。二町許登ると左に舊道がある。

○舊道は鳥居川に沿うて登る谷道で、途中一本樅（モミ）（登道中の老木）新三階滝・不動滝・一ノ行場・二ノ行場等を經て、白ナギ澤の下から急傾斜の坂路を上つて新道に會してゐる。

新道は舊道の岐れ口から右に登り、左折して山腹を進むもので、右は所々に斷崖壁立して崖腹に數多の洞穴を存し急雨の避難所となり、左は鳥居谷に臨み、對岸虛空藏山から東に分岐する輻射嶺に對して展望に富み、峽中にはツ、ジ・カヘデの類が多く、山草類に富めること、赤城登山道十餘條中、變化多き風景と共に此登道を隨一とする。舊道の岐れ口から約十七八町で舊道に會し、其右側山腹に鐘岩と呼ぶ巨岩が突出してゐる。これから約三町許で頂上に着く（山頂案内大間々口參照）

赤城山頂廻遊案内

◎前橋口から新坂峠を登りきると、前に廣い新坂平が開け、右に神庫山（クラヤマ）（俗稱地藏嶽）が峙立し、西方には南から姥子峠（ウバコウゲ）・姥子山・鍬柄峠（クハガタ）・鍬柄山の順に舊火口壁西部の一部が堤塘狀に連り、其北部鍬柄峠の西北に鈴ヶ嶽が見える。回顧すると前面の左に荒山が聳ゑ、西方外輪山の東端なる船ヶ鼻との間に白川溪を控え、殊に若葉の景色が美しい。原頭にはミヅナラ・シラカバ等の古木が點々樹立する間にレンゲツ、ジが一面に叢生して、花季紅焰漲（コウエンミナギ）るが如き盛況を呈する。原頭を北に横切ると、澁川口・敷島口（姥子峠口・鍬柄峠口）の道路が會してゐる。是から雜木林の間を進むと二町許で左に見晴山がある。山頂の展望殊にレンゲツ、ジの眺望臺である。尙二三丁進むと岐路がある。右は赤城神社道で（約八町で達す）左に下ると約四町で沼尻（ヌノシリ）の青木旅館の前に出る、これから大沼湖畔を東に迂ると約八町で赤城神社の前に出られる。青木旅館から船で湖上を縱斷することも愉快である。

青木旅館の前を過ぎり西に進むと、沼尾川の源である大沼（オホノ）の排水口がある。これを渡ると深山（ミヤマ）・敷島口の出張越路（デバリゴヘ）を分ち、尙少し進むと沼田口なる野坂峠路。東利根入口なる舊五輪峠路等が岐れ、湖の西北隅附近から湖畔漸く開けて抱餘の楓類（カヘデ）が林立してゐる。此邊が所謂紅葉が淵で、左方山腹に鱒（マス）の孵化試驗場の建物がある。湖畔の林中を迂り湖の東北隅に至ると東利根入口なる新五輪峠道と黑檜山の登路が岐れてゐる。東北隅から南に向ふと間もなく右に小鳥島の入口に會する。小鳥島を一周して本路に出で前進すると、左に黑檜山の舊登道が

岐れてゐる。前面左側に峙立するは駒ヶ嶽で、右方湖の南に聳うるのが神庫山である。駒ヶ嶽の裾を二町許進むと東に原野が開けてゐる。此處が番小屋平で東方覺滿平に續き、覺滿川が縱斷してゐる。湖畔を廻り覺滿川を渡り湖の東南隅なる辨天ヶ淵附近から展望すると、湖の東北隅に聳うる黑檜山から西に五輪峠・陣笠山・藥師嶽・野坂峠と列り、夫れから南に折れて最後に美しい圓錐形をなした出張山が出張つて、外輪山の西北部が半環狀をなして保存されてゐることが認められる。赤城神社に詣で門を出ると、右に茶店社內屋が在り、鳥居を潛つて左に進むと赤城旅館がある。

□小沼へ　赤城旅館の前から南に上る路が所謂八町坂で、右は神庫山で左は千日澤の樹海である。少し登り牧場の木戸を越へると間もなく、神庫山の山腹に有名なシャンツェがある。八町坂を登りきつた處に庄塚の婆の石像があつて路が兩岐してゐる。左折して進むと約二町で小沼の緣に出られる。

△大胡方面とテンヤ坂口、八町坂の上から南に神庫山の裾を進むと火口原小沼平が開けて神庫山の略東南隅から、湯之澤・瀧澤口の牛石峠路が岐れてゐる。此處から原野を橫斷して雜木林の間を拔けると牛石峠に逢着する。尙此岐れ口から神庫山の南裾を廻り、雜木林に入らうとする附近に、三夜澤路が岐れてゐる。其左前方に峙立する前淺間山の東裾を南に進むと輕井澤峠に出る。此岐路から雜木林の間を西に進むと三町許で地獄谷の南崖に出る。これが所謂テンヤ坂通りで下る程に前橋口の一杯淸水の上に出られる（此方面から近路であるが頗る難路である）小沼路を廻ると左は北山で右脚下に血の池の潴水がある。小沼に下る手前に朝香山の登路が岐れてゐる。朝香山は小沼の西岸に在つて、東岸に長七郎山其北に虛空藏山（里俗小地藏山と呼ぶ）が峙立してゐる。

△梨木鑛泉口　小沼の西岸朝香山の東裾を廻り、南岸に出で小沼の排水口を渡り、右折して小沼川の左岸に出で、長七郎山の南に連なる前山の腰部を進むと十餘町で茶の木畑峠に逢着する。途中脚下右前方に「オトキ森のナラ林があつて、森の西南端小沼川に旭瀑が懸つてゐる。茶之木畑峠の西に連なる所が所謂躑躅ヶ嶺で、これを西に廻ると數町で銚子伽藍の上に出る。其中途に瀧澤路が岐れてゐる。これが所謂躑躅ヶ嶺通りである。茶之木畑峠の木戸を排して下ると數町にして路が兩岐する、右は舊道で新里村及び大間々町方面に下るもので、左が梨木新道である。

○小沼から鳥居峠へ、小沼の北岸牧場の柵を越へて東北に進み、虛空藏山の西裾雜木林の間を進むと約五町で鳥居峠に逢着する。西方脚下に覺滿平が展開して、其中央に覺滿淵を湛へ東は脚下に鳥居谷の樹海が漂ひ、遙かに袈裟丸・日光・足尾の諸山を望み、展望の佳なる山中隨一と稱すべき處である。これから東に下ること約二十三町で利平茶屋に着く。

鳥居峠から西に下り覺滿平番小屋平を橫斷すると約六町で講堂の前に出る。講堂の北に赤城圖書館がある。これより湖畔に出て赤城神社の前から湖畔を西に進むと數町で四本楢平に出で右に沼尻路が分れてゐる。左折して進むと新坂平に到着する。

◎大間々口から、東登道鳥居峠を登りきると眼界急に開ける。其處は海拔一三九三米の地點で、頂に庄塚の婆の石像を安置し、里俗婆坂と呼んでゐた。其下に延命泉が湧出してゐる。

鳥居峠は外輪山の一部で、北は外輪山駒ヶ嶽から續く籠山で山腹に山骨の露頭が散在し、南は小沼寄生火山の東北壁をなす虚空藏山の北部で、雜草茂生する中にレンゲツ、ジが叢生してゐる。東は直に鳥居谷に臨み、美しい樹海を隔てゝ鍛冶坂を望み、遠く足尾山塊の連嶺が連つて、其北部には袈裟丸山を初め足尾・日光の諸峰が聳え、漸次南に低下して其平野に沒せんとする西南には、鹿田山・廣澤山・金山の丘陵が連り、其間を渡良瀬川が銀蛇の如く蜿蜒として流れて平野に入り、茫漠たる平野の東南遙かに筑波の双峰が、天空を摩せんばかりに聳立してゐる。其大觀を展望して回顧すると、赤城火山の北半部が双眸に映ずる。即ち脚下は覺滿淵から番小屋平の火口原が展開して、火口原湖赤城湖に連り、火口原の北には外輪山の一部なる駒ヶ嶽が峙立し、南は小沼寄生火山の火口壁の北麓が浸蝕された千日澤の樹海に接し、火口原の中央部には覺滿淵の小潴水を湛へ、其末流は原頭に林立するミヅナラ・シラカバ中に沒し、原野の大部は矮草茂生してレンゲツ、ジが叢生してゐる。又湖の南には頭顱形の神庫山（俗稱地藏嶽）が峙立して、其北腹は雜木密生して直に湖に臨み、其東端に見える針葉樹叢は赤城神社の社叢で、其北方湖中に突出する針葉樹叢は小鳥島の南角である。又湖の西北部には舊火口壁が堤防狀をなして圍繞してゐる。其西部の南に峙立する美しい圓錐形の山が出張山で、其北端に峙立して二三個の握飯を聚めたやうな形をなすものが藥師嶽で、其西腹に沼田口の野坂峠がある。藥師嶽の東には笠形をした陣笠山があつて、其東は五輪峠で黑檜山に連つてゐるが、黑檜山は駒ヶ嶽に被はれて見えない。人若し東登道を上り以上の景觀に接すると誰でも鳥居峠の胸突約數町難路の苦を一掃して快哉を再唱する。殊に此處は霧の名所で、其起消聚散する景趣に變化があつて面白い。筆者は登山者の誰にでも一度は此登路を辿られんことを推奬する。頂上から西に下ると七町で講堂又は赤城旅館の前を過ぎり赤城神社に達する。

○小沼を經て大洞へ、鳥居峠の頂きから左折して虚空藏山の西麓を辿つて、雜木林の間を縫うて進むと約五町で牧場の柵に逢着する。附近にはコメツ、ジが叢生してゐる。柵を越へると前面に小沼を湛へ、沼を圍む長七郎山・虚空藏山・北山・朝香山の山腹にはレンゲツ、ジが叢生して、花季紅焰を漂はし、牧場の牛馬は或は若草に舌皷を鳴らし、或は湖水に渴を醫せる樣畫も亦及ばざる風情がある。湖畔を南に辿ると排水口の南に瀧澤口なる躑躅ヶ嶺通り、梨木口の茶之木畑峠路がある。小沼の北岸を西に辿ると、左に朝香山の登路がある。朝香山は全山ツ、ジ類多く眺望もよい。朝香山の登り口から西に辿ると、前面に神庫山が聳え、左方朝香山の西北に血の池があるが、近年多くは水が涸れて一小窪地たるに過ぎない。神庫山の南は火口原小沼平で殊にレンゲツ、ジが能く繁茂してゐる。小沼平の南に峙立するものが荒山である。前進して神庫山の裾に逢着した處が八町峠で、左側に庄塚の婆の石像がある。路は此處に兩岐してゐる。左折して南に進み神庫山の東南隅附近から左に進み、原野を横つて進むと湯の澤瀧澤口の牛石峠に至り、神庫山の南裾を巡り雜木林に入らんとする附近から左折して前淺間山の東裾を進むと三夜澤口の輕井澤峠に出られる。尙雜木林の中を西に辿り地獄谷の南岸を經てテンヤ坂を下ると、前橋口の一杯清水の上に出る。

△神庫山登り、八町峠から神庫山の東腹にある小溪の北に沿うて登ると、比較的容易く神

庫山の山頂に達する。山頂には三角標點と地藏尊の石像及石燈籠等がある。山頂から西に下ると新坂平に下り、東北に下ると赤城シャンツェを經て八町坂の北部に出られる。八町峠から右折して北に下り、赤城シャンツェを過ぎり木戸を越へると、間もなく赤城旅館の前に出で、其西に赤城神社の鳥居が見える。神社の境内に茶店社内屋がある。神社の前を西に進むと。沼尻•見晴山•新坂平等がある。

○湖岸巡り　赤城神社に詣で湖畔に出で、湖舟を雇ひ沼尻に至るも一興であるが、小鳥島から北岸を廻遊することも亦興味がある。辨天淵から湖畔を北に辿ると、前面右方に駒ヶ嶽が湖に臨み五月から六月にかけて紅ヤシホ（俗稱アカ、ギツ、ジ）が咲き亂れ、八月初旬には夫木集に「萬代に赤城の山白椿君がさかゆく卯杖にぞきる」とある白椿又夏椿と云ひ、シャラとも呼ぶ白椿がツラ〳〵と咲きほこり、初冬には木花がついて美しい。駒ヶ嶽の北に黑檜山が聳え、其西腹に猫岩が突出して五輪峠に連り、五輪峠の西に陣笠山（ヂンカサヤマ）•藥師嶽•野坂峠と連り、夫から南に折れて出張山となる北西部の外輪山を眺めながら進む程に、小鳥島の手前で右に黑檜山舊登道が岐れ、其先方左に小鳥島路が分れてゐる。小鳥島は樅栂（モミツガ）等の常綠樹の中に雜木を交へ、頗る閑寂な仙境で種々なる山草が繁茂してゐる。島を出で北に進むと、黑檜登山道と五輪峠道が岐れてゐる。湖の北岸を西に辿ると西北部の山腹に鱒の孵化試驗場の建物があつて、其附近の湖畔が紅葉が淵で紅葉がよい。西岸を進み排水口を渡ると目前に青木旅館がある。青木旅館附近から湖水を隔てた眺望も美しい。旅館の東から湖畔を辿つて東に進むと八町で赤城神社に到達する。

○見晴山から新坂平へ、青木旅館の東から右折して南に上ること約五丁で大洞路に會す。是より二三町進むと右に見晴山が在つて眺望に富んでゐる。尙雜木林の間を數丁進むと、右に鍬柄峠道と姥子峠路が岐れ、目前に新坂平の火口原が展開してゐる。新坂平は神庫山の西裾に在つて、其南端新坂の上から白川谷を望むと、右に船ヶ鼻が突出し、左に荒山が峙立し其間に白川谷を擁して眺望がよい。

毛野研究會發刊品目

一、古墳關係展覽會目錄及講話筆記（本會開催）　送料共　金貳拾五錢
一、群馬縣鄉土展資料展目錄（本會開催）　同　金拾錢
一、毛野第一號　同　金貳拾貳錢
一、毛野第二號（上毛電鐵沿線號）　同　金五拾四錢
一、上毛電鐵沿線概觀　同　金五拾四錢
一、毛野第三號（赤城山號）　同　金六拾四錢
一、赤城山大觀　同　金五拾四錢
一、毛野第四號　同　金貳拾貳錢
一、赤城山中の神秘境銚子伽藍探勝記　同　金拾五錢
一、毛野第五號　同　金參拾貳錢
一、新里村鄉土大觀　同　金貳拾錢
一、毛野第六號　同　金參拾貳錢
一、毛野第七號　同　金參拾貳錢
一、黑川峽と澤入塔　同　金貳拾五錢
一、毛野時報創刊號　同　金拾貳錢
一、神流川溪谷地質巡檢手引　同　金拾錢

昭和九年六月二十一日印刷
昭和九年六月二十四日發行

定價金拾五錢

編輯兼發行者　岩澤正作　群馬縣山田郡大間々町大字大間々千二百二十八番地

印刷者　仁井田錠次郎　群馬縣前橋市北曲輪町四十三番地

印刷所　株式會社前橋印刷所　群馬縣前橋市竪町百〇一番地

發行所　群馬縣山田郡大間々町　毛野研究會　振替口座東京四二三一七番

連絡時間表

大間々登山口連絡時刻

ゆき		かへり	
雷門發電車	午前五、三〇	利兵衛自動茶屋發車	午前八、五〇
この間	一時間毎に發着	この間	一時間毎に發着
利兵衛自動茶屋發車	午後二、三〇	新大間々發電車	午後五、一五
新大間々發自動車	午前八、一五	雷門着	午後七、〇一
利兵衛茶屋着	午後六、二五	雷門着	午後九、四〇
雷門着	午後九、四〇	新大間々發自動車	午後〇、四〇
新大間々發自動車	午前九、二五	利兵衛茶屋着	午後五、五〇
利兵衛茶屋着	午後六、二五	雷門着	午後七、〇一
雷門着	午後九、四〇	新大間々發自動車	午後〇、四〇

前橋登山口連絡時刻

ゆき		かへり	
雷門發電車	午前五、三〇	箕輪發自動車	午前七、〇〇
この間	二時間毎に發着	この間	二時間毎に發着
中央前橋發自動車	午前九、〇〇	中央前橋發電車	午前八、三〇
箕輪着	午前九、五〇	雷門着	午前一一、四〇
雷門着	午後一、三〇	箕輪發自動車	午後五、〇〇
中央前橋發電車	午後五、〇〇	雷門着	午後六、〇〇
雷門着	午後五、五〇	中央前橋發自動車	午後六、三〇
箕輪發自動車	午後六、〇〇	雷門着	午後九、四〇

東武電車赤城山廻遊

東武電車の赤城山廻遊は淺草雷門驛より館林、足利、太田を經て新大間々驛より赤城山中利平茶屋まで自動車による大間々口と中央前橋驛より箕輪迄自動車による前橋口の二途あり廻遊順序は何を先にするも御隨意で廻遊切符は大間々口より登り大間々口に降ることは差支なきも前橋口より登り前橋口に降ることは出來ない規程である

東京より廻遊割引

金參圓八拾錢

自六月一日
至九月末日

赤城山東登山口自動車時刻表

赤城山利平茶屋行

淺草雷門發	新大間々發	水沼發	赤城山利平茶屋發	水沼發	新大間々發
午前五、三〇	午前五、三〇	午前六、三〇	午前七、五〇	午前九、一五	午前一〇、〇一
六、三〇	七、一五	七、五〇	八、五〇	一〇、一五	一一、一五
七、三〇	八、一五	八、五〇	九、五〇	一一、一五	一一、〇一
八、三〇	九、一五	九、五〇	一〇、五〇	午後一、一五	一、〇一
九、三〇	午後一、一五	一〇、五〇	一一、五〇	二、一五	二、〇一
一〇、三〇	一、一五	一一、五〇	午後一、五〇	三、一五	三、〇一
一一、三〇	二、一五	午後一、五〇	一、五〇	四、一五	四、〇一
午後一、三〇	三、一五	二、五〇	二、五〇	五、一五	五、〇一
二、三〇	四、一五	三、五〇	三、五〇	六、一五	六、〇一
	五、一五	四、五〇	四、五〇	七、一五	七、〇一
		五、五〇	五、五〇		八、〇一

淺草雷門行

赤城山利平茶屋發	水沼發	新大間々發
午前七、五〇	午前九、一五	午前一〇、〇一
八、五〇	一〇、一五	一一、一五
九、五〇	一一、一五	一一、〇一
一〇、五〇	午後一、一五	一、〇一
一一、五〇	二、一五	二、〇一
午後一、五〇	三、一五	三、〇一
二、五〇	四、一五	四、〇一
三、五〇	五、一五	五、〇一
四、五〇	六、一五	六、〇一
五、五〇	七、一五	七、〇一
六、五〇		八、〇一

(自六月一日
至九月末日)

注意

一、各時刻共東武電車と連絡いたします
一、十人以上の團體には隨時に臨時車を增發します
一、桐生大間々間も時間待なく全部連絡致します

賃金

新大間々驛	利平茶屋間	金八十錢
利平茶屋	沼田間	金一圓四十錢
水沼	利平茶屋間	金六十五錢
利平茶屋	往復	金九十錢

赤城山大間々口
登山自動車

本線は東毛の名勝、高津戸峽の一部神梅新道の奇勝轉瀨の峽流等渡良瀨川の勝地を眺めながら水沼に至り渡良瀨河谷より赤城山の裾野に登り、鍛冶坂より鳥居川の浸蝕谷に下り其左岸の山腰を運轉しますから風景の變化に富み、眺望の佳なる山中十餘條の登道中隨一と稱せられ、山頂と鐵道との距離も一番接觸して居りまして交通至便の登路であります。本線終點利平茶屋より鳥居峠迄二十三丁、赤城神社まで三十丁一時間で達せられます。(下りは約四十分)鳥居峠の展望も第一と稱せられて居ります、登山者は是非一度は此線の御通過を御勸めいたします。

大間々町六丁目(電話六四番)
赤城山タクシー　田島商店
同　町　三丁目(電話三七番)
同　田島自動車部
同　町　七丁目(電話六二番)
新大間々驛前營業部

茶代御辭退

香雲館

伊香保溫泉湯元

塚越七平本館

電話 一〇七番 七〇七番

塚越別莊

電話 七〇番

御宿泊料は金貳圓、參圓、四圓の三種として居ります

群馬縣教育會編纂 發行所 前橋市曲輪町 株式會社 煥乎堂 振替東京八四八番

鄉土讀本

教科書、課外副讀本用、分冊、上卷、下卷 定價各金參拾五錢

一、本書は一般縣民に鄉土を理解せしめ、其の愛護の思想を鼓吹し、國民精神を涵養せんがために編纂したものである。特に青年子女には最も好適なものである。從つて中等學校生徒、小學校上級兒童及び實業補習學校生徒等の讀物に充て得るやう考慮をめぐらした。

二、本縣は、特に歷史的事實並に地理的事象の擧ぐべきもの、傳ふべきもの甚だ多く、しかも分量に制限を要するを以て、題材の選擇には一段の苦心を拂ひ、本縣の特色を物語り讀者をして感奮興起せしめるに足る主要なるもの四十四篇だけ採擇した。

全一冊 二三〇頁 寫眞 五十個入 十二ポイント組 特製 金四圓五錢 定價 金六拾錢 送料 八錢

鄉土讀本目次

三山のほこり　總社と國府國分
横野の先史　寺の址
大利根の流れ　上野三碑
海老瀨の貝塚　上州一の宮
雷とカラッ風　農業と開墾
古墳國上毛野　佐野の渡
上古の毛野國　新田左中將
不二穴の奇觀　岩櫃城

山の惠み　金山の松風
平井城と上杉氏の末路
桐生織物と伊勢崎
箕輪城懷古
銘仙　沼田城と名胡桃城

前橋城の面影
聖堂と教育の沿革
往古の街道　蠶飼のいそしみ
館林城と躑躅ケ岡
劍家の名流　關孝和

つづれの御旗　鹽原太助
高崎聯隊　絲とるわざ
高山彦九郎　市河米庵と父寬齋
中野耕と高崎絹　金井烏洲

上州長脇差　鐵路の中心高崎
小栗上野介忠順
堀口藍園　溫泉の國上州
明治の先覺新島襄
社會事業　縣政の發達

銀行一般業務精々御便宜に御取扱可申上候間
何卒御利用の程願上候

群馬縣山田郡大間々町
株式會社 大間々銀行
電話十五番

勢多郡粕川村女淵
粕川支店

赤城山東登口の風景は變化が多く、眺望に富み、史蹟名勝も多々ありますから當地方の方々御登山の折は往復一度は御通りになつて本線を御利用下さい。

乘合
貸切
荷物

佐波郡伊勢崎町（電話四三〇番）
十王自動車株式會社
社長 石倉松丸

乘合 伊勢崎＝大間々（足尾線大間々驛まで）
伊勢崎＝茂呂（今回六丁目角（待合所を新設いたしました）

開運
出世
貴船神社 小祭 毎月一日 十九日 大祭 四月・九月 十九日
山田郡福岡村穴原
貴船神社々務所

縣道水沼大間々線が改修され大間々町から自動車が直通するやうになり御參拜に便利になりました。

上毛電鐵
東武電車新大間々驛約十町
足尾線大間々驛より三町
大間々名勝
高津戸峽畔
ながめ
電話 六十五番

御登山には懷中電燈
御忘れなきよう
キング乾電池
製作所
群馬縣大間々町
電話 六六・一六番

群馬縣大胡町
大胡鑛泉
大胡名勝
千貫沼
大胡館
電話十七番
上毛電鐵
東武電車大胡驛の東南五町

毛野研究會
刊行書發賣店
岩澤書店
大間々町學校通

大間々貴船神社
小平大杉間乘合
阿久津自動車部
大間々町二丁目

上毛山田郡福岡村穴原
貴船神社前
御休憩所 貴船家
當家裏座敷は渡良瀬川に臨み眺望に富み納涼百パーセントなれば御參拜の折御利用下さい。

大間々町三丁目學校通り
乘用
貸切
田口自動車部
電話四四番
出張撮影 田口寫眞部

大間々町四丁目
役場正門前
青山寫眞館
電話(呼)一四九番

大間々町三丁目
壽賀寫眞館
館主 菅盛哉

大間々町五丁目
高級洋服
學生服
橋爪洋服店

大間々銀行前
生そば
うどん
山本屋
電話七二番

大間々町三丁目
土木
建築請負業
白石勇松
電話二七番

大間々町二丁目
大間々活版所
金子平一郎
電話六三番

大間々町四丁目
紙帳簿
文房具
書籍
マスヤ紙店
電話五一番

大間々町四丁目
㊀之御菓子
板橋商店

足尾線水沼驛前
御料理
御旅館
赤城閣
新大間々驛より乗合自動車が三十分毎に到着します

赤城山番小屋平（鳥居峠通）
御休憩所
大熊猪谷
當所は舊猪谷旅館で御馴染の大熊が新設したホールで駒ケ岳のッ、ジが一目に眺められます、是非御利用願ひます

赤城山大洞
簡易宿泊
御休憩所
湖月館

大洞赤城神社前
御休憩所
社内屋

赤城御登山には是非當店精製のパンを願ひます
洋風菓子一式
孔雀パン製造元
大間々町學校通り
電話（呼）四四番

赤城山東登口
自動車終點
御休憩所
利平茶屋
當所より鳥居峠迄約二十二丁途中の風景絶好、頂上の展望は山中隨一と云はれて居ります

赤城山大洞鎭座

開運
出世

赤城神社

本館は赤城湖に臨み、居ながら山中の最高峯黑檜山を初め北部の外輪山を望み、眺望に酬ゐられた位置に在りますから、御登山の折は是非本館へ御立寄り願ひます

赤城山大洞沼尻

クーポン指定 青木旅館

ボート其他の娯樂設備を完備して居り附近には見晴山、沼尻平、紅葉が淵、鱒孵化試驗場、鈴蘭瀧等の勝地があります。

省線連絡

赤城乘合自動車

前橋口自動車發車時間表

前橋驛發	赤城山發
午前五時	午前五時
七時	七時
九時	九時
十一時	十一時
午後一時	午後一時
三時	三時
五時	五時
六時	六時

但シ午前五時及午後六時ハ六月一日ヨリ九月三十日マデ運轉シ冬季ハ休運シマス

赤城山乘合自動車は赤城登山專門の自動車ですから、阪路運轉には安全迅速の自信があります、發車時間は上記の通りですが、四人以上の場合は時間外でも發車します東京方面の方はクーポンの連絡切符なれば便利であります。

雄大な赤城の裾野を快速にドライブする味は前橋口登山唯一の樂しみであります。

團體登山の方は前以て御照會を願ひます。

赤城乘合自動車會社

營業所　前橋市才川町（電一、五一一）

出張所　前橋驛前（電一、四八四）

赤城山大洞

御登山の折は新装の本館へ

赤城神社側

クーポン指定

赤城旅館

御急ぎの折はホールを御利用下さい。寫眞部、モーターボート其他娯樂設備完備して居ります。

地藏橋畔　一杯茶屋地藏出張所

前橋驛前　前橋案内部

電話一、八二〇番

22170

御注意

○ 本は大切に扱いましょう。

○ 本は転貸借はお断りします。

○ 10日間の期限に必ず返して下さい。

○ 本を汚損または紛失した時は同一の本又は相当代価を弁償していたゞきます。

群馬県立図書館

前橋市栄町10番地

（電話3008番）

赤城山腹

梨木鑛泉場

◎泉質食鹽を含む炭酸泉
◎胃腸病、神經痛、婦人病等に特効あり
◎足尾線上神梅驛より一里、驛前に案内所あり
◎上毛電鐵新大間々驛より梨木縣道分岐點迄三十分毎に乘合自動車の便あり

湯元

梨木館

群馬縣勢多郡黑保根村大字宿廻

館主 深澤直十郎

電話【水沼】七番

◎赤城山へ二里半◎國定忠次の岩窟◎瀧澤不動堂等へ各壹里
◎附近に湯元八景及史蹟名勝多し